

～埋もれた作品を再び世に送りだすことに協力する会～



配給プロジェクトN

コンテンツ一覧

	作品名	ジャンル	分数	制作年	監督
1	火の雨が降る	アニメ	カラースタンダード 80分	1988	有原誠治
2	伊勢湾台風物語	アニメ	カラービスタ85分	1989	神山征二郎
3	うしろの正面だあれ	アニメ	カラービスタ90分	1991	有原誠治
4	せんぼんまつばら	アニメ	カラービスタ90分	1992	出崎哲
5	ライアンツリーのうた	アニメ	カラービスタ88分	1993	有原誠治
6	星空のバイオリン	アニメ	カラー スタンダード88分	1994	中山節夫
1	チーコー物語 ネズミ小僧のつくりかた	実写	101分	1991	中田新一
2	PiPiとべないホテル	アニメ	カラービスタ90分	1995	中田新一
3	栄光へのシュプール	アニメ	カラービスタ90分	1997	奥脇雅晴
4	チンパオ	実写 日中合作	カラービスタ94分	1999	中田新一
5	ウィニング・パス	実写	108分	2005	中田新一
6	風のダドゥ	実写(角川)	95分	2006	中田新一
7	MARCHING-明日へ-	実写	111分	2014	中田新一
1	地の群れ	実写(ATG)	モノクロスタンダード 127分	1970	熊井啓
2	祭りの準備	実写(ATG)	カラービスタ117分	1975	黒木和雄
3	鷗よ、きらめく海を見たか めぐり逢い	実写(ATG)	カラービスタ92分	1975	吉田憲二
4	夕暮れまで	実写(東宝)	110分	1980	黒木和雄

—火の雨がふる(1988年)— <アニメ・カラースタンダード80分>

長編アニメーション映画「火の雨がふる」より 火の雨がふる



福岡空襲を記録する会編「火の雨が降った」より

監督：有原誠治 企画原案：九州映画センター キャラクター原案：長谷川法世
製作：瀬戸義昭・につかつ児童映画・虫プロダクション 脚本：今泉俊昭・有原誠治
企画製作：瀬戸義昭・西村豊治・伊藤叡 ナレーション：米倉斉加年

<作品紹介>

東京空襲で母と弟をなくした品川頼子は、親戚のおじさんの家をたずねて、陽気な博多の町へやってきました。気丈な頼子は、博多人形師のむすこである友次と、ことごとに対立します。今日も警戒警報で集団下校中「空襲なんかちつとも怖くない」とふざける友次のほっぺたを打ってしまいます。だが、頼子のつっぱりも、母と弟をなくした悲しみの現れであり、次第に友次は、頼子の心の傷の深さを理解し、彼女の支えになろうとします。6月19日午後11時——。静かに眠る博多の町に空襲による焼夷弾の火の雨が降りました。友次は、頼子の手をとって必死に逃げまどい……。

千五五十数年。戦争を知らない世代が国民に圧倒的多数になり、ともすれば戦争の不幸な体験が風化していく危険もはらんでいる。本作品は、福岡空襲を記録する会編「火の雨がふる」をベースに、700年余り続いてきた代表的な祭り、博多祇園山笠が空襲によって途絶えた経験を重ねて、あらためて平和の尊さを訴えるために長編アニメーション映画を世に贈り出すことになった。原案、長谷川法世、声の出演は米倉斉加年ほか多数の福岡出身者が協力参加しているのも特色。

—伊勢湾台風物語(1989年)— <アニメ・カラービスタ85分>



監督：神山征二郎 製作：瀬戸義昭・山田昭男・伊藤叡
企画：加藤潤一 脚本：神山征二郎
演出：岩本保雄 キャラクターデザイン：北崎正浩 撮影監督：藤田正明
声の出演：小山茉美 戸田恵子 戸谷公次 山口奈々 堀秀行 他

<解説>

1959年(昭和34年)に東海地方に甚大な被害をもたらした伊勢湾台風による災害被害とその惨劇を描いたアニメーション作品で、名古屋市南部(南区柴田)が舞台とされる。1959年(昭和34年)9月26日、土曜日。小学校6年生の津島ひかりと同級生西沢利夫他クラスメイト達は明日の運動会を楽しみにしていた。しかし、台風15号の接近のため運動会は中止となる。その後、台風は勢力を強め紀伊半島潮岬に上陸する。強力な台風による高潮で、貯木場の大量の木材が押し流されて家々を破壊、そして大勢の人々も一緒に飲み込んでいった。ひかりの一家は辛くも屋根の上に逃げるが高波が押し寄せ一家は全員流されてしまう。ひかりの愛犬ブチは溺れかけたひかりを背負って濁流の中神社の大木へと泳ぎ着き、その枝にひかりを引っ掛けてブチは波の中へと消える。一方、逃げ遅れた為に家に閉じ込められた利夫は母と共に天井を破って屋根へ上がろうと試みる。どうしても天井板を破る事が出来ず、次々と流れ込む水によって最後まで妹を守りながらも力尽きる。翌日、ひかりは無事発見されるが両親や利夫は助からなかった。各地に甚大な被害をもたらした台風15号は後に伊勢湾台風と呼ばれる事になった。名古屋市が舞台ということもあり、メインの声優陣には愛知県出身者が多く起用されている。

—うしろの正面だあれ(1991年)— <アニメ・カラーピスタ 95分>



劇場公開時、全国 150 万人が涙した感動のアニメ

監督：有原誠治 原作：海老名香葉子「うしろの正面だあれ」(金の星社刊)

提携：(株)テレビ東京・につかつ児童(株)・(株)アルファデザイン・虫プロダクション(株)

製作：国保徳丸・瀬戸義昭・西村豊治・伊藤叡 企画：鳥山英二・寺島鉄夫・有原誠治

脚本：今泉俊昭・有原誠治

声の出演：三輪勝恵 岩本則夫 池田昌子 海老名泰孝 佐々木望 野沢雅子 他

<解説>昭和 15 年。東京本所区(現・墨田区)に住む八才のかよ子は、五代続いた釣竿店の娘で、働き者の両親と、三人の兄、祖母の愛情に包まれて、明るく健やかに育っていた。昭和 16 年、弟の誕生に姉である喜びを実感するかよ子だったが、12 月 8 日、日本は太平洋戦争に突入し、町には出征兵士を見送る光景が見られるようになる。昭和 19 年 6 月、B29 爆撃機の来襲が頻繁になり、かよ子はたった一人で沼津の伯母の所へ縁故疎開することになる。そして、昭和 20 年 3 月 9 日の夜、沼津で箱根の山脈ごしに真っ赤に燃える東京の空を見るかよ子は、この大空襲で父も母も兄二人と弟、祖母の家族六人が死んだことを、唯一生き残った兄・喜三郎から聞かされるのだった。そんな絶望の中で敗戦を迎え、親せきの家を転々としたかよ子は、本所の焼け跡で思い出の品の残骸を拾い、かつてこの辺りで「うしろの正面だあれ」と歌って遊んだ友達や家族のことを想い、泣き続けた。そんな時、ふっと「かよ子は明るく人に好かれる子だからだいじょうぶ。自信をもたなきゃね」と、いつも励ましてくれた母親の言葉がよみがえってくる。そして、この言葉をかみしめながら、死んだ家族のためにも生き抜こうと決心したかよ子は、明日に向かって一歩一歩踏みしめ、歩きだすのだった。

—せんぼんまつばら(1992年)— <アニメ・カラーピスタ 90分>



監督：出崎哲 演出：棚橋一徳 原作：岸武雄

脚本：今泉俊昭 作画監督：清水恵蔵

声の出演：佐々木望 島田敏 増岡弘 有馬瑞香 矢島晶子 大谷育江

此島愛子 森繁久彌 他

<解説>

18 世紀の江戸中期を舞台にした大治水工事「宝暦治水」に臨む人々の姿を描いた、作家・岸武雄による原作『千本松原』を約 100 分の劇場用アニメ化。東京都知事・千葉県知事・大阪府教育委員会の推奨のもと、芸術文化振興基金助成作品として製作された。

宝暦 3 年。木曾・長良・揖斐の三川に接した中洲である高須輪中瀬古村。長らく水害に苦しめられてきた農民たちは今年こそ豊作だと喜ぶが、思いもかけぬ雨続きのため、大洪水に見舞われてしまう。少年・与吉は将軍が川をせき止めないことに疑問を抱き、自分自身が大人にまじって防水工事に参加する。その翌年の春、ついに尾張三国にまたがった大規模な治水工事が開始され、幕府の指示で薩摩から何百もの侍が工事にやってくる。与吉とその友だち幸助も高い人足賃がもらえると聞いて工事へ赴くが、薩摩の侍たちの言葉がわからずに苦労し……。

本作の実制作はマジックバスが担当。その代表である出崎哲が監督を務めた。主人公の与吉は佐々木望が演じている

－ライアンツリーのうた(1993年)－ <アニメ・カラーピスタ 88分>



文部省選定作品・日本PTA全国協議会特別推薦・北海道教育委員会特別選定

厚生省中央児童福祉審議会推薦・日本青年団協議会推薦他

原作：たかしよいち「北の逃亡者」 脚本：今泉俊昭・有原誠治

監督：有原誠治 製作：スペース映像・虫プロダクション

声の出演：堀内賢雄・鷹森淑乃・田原アルノ・滝沢久美子・大宮悌二・結城比呂

<解説>強制連行によって中国から北海道の炭鉱に送り込まれ、終戦直前に脱走、そのまま14年間の逃亡生活を続けた劉連仁さんの実話を映画化した長編アニメーション。彼をモデルにした、たかしよいちの同名児童文学（「北の逃亡者」より改題、理論社・刊）をもとに、有原誠治が監督。

<ストーリー>1947年の春、開拓村の畑が広がる北海道白糖台地。戦争のショックで口が聞けないまま満州から引き揚げてきた少女・とも子は、山奥の開拓地で芽生えを見せたライアンツリー（中国梨の一つ）の木の前で、中国人のインレンと出会う。戦時中、中国から北海道の炭鉱に強制連行され奴隷のように働かされた彼は、仲間とともに脱走しそのまま終戦したことも知らず山奥で逃亡生活を続けていた。ライアンツリーは彼が望郷の思いにかられ種を蒔いたものだった。それから10年以上がたった。インレンの歌う中国の子守唄がきっかけとなって言葉を取り戻し、今や高校3年生となっていたとも子は、インレンの行方を探し続けていた。14年に渡る逃亡生活の果て、死ぬ前にもう一度ライアンツリーの木を見たいと思ったインレンは、そこで遂にとも子に再会。こうして長い逃亡生活は終わるのであった。

－星空のバイオリン(1994年)－ <アニメ・カラースタンダード 88分>



監督：中山節夫 製作：瀬戸義昭 原作：和田登（PHP 研究所）

音楽：栗山和樹 作画：椛島義夫 動画：棚橋一徳 脚本：今泉俊昭

声の出演：高乃麗 平田広明 石森達幸

磯部万沙子 島田敏 山田妙子 岩井小百合 石波義人 谷育子 牛山茂 他

<解説>

この映画は、長野県中野市で農業のかたわらバイオリンの製作を続けておられる、小沢僖久二さんの伝記「星空のバイオリン」（和田登著/PHP 研究所刊）を原作にしたオリジナル物語です。小沢さんは対象なかば農業の次男として生まれました。幼い頃から工作が得意で、音楽が好きでした。小学生の時はじめてバイオリンの音楽を聴き、その音色に魅せられ、自分でバイオリンを作ってみようと独学で製作を始めました。小沢さんのバイオリンは、時間と手間を十分にかけ、心を込めた手作りです、その音色と響きは演奏家たちの高い評価を受けています。

この作品は、小沢さんの少年期と青春時代を子どもにも大人にも楽しんでいただける、愛と感動とスリルに満ちたロマンとして描き、バイオリン主体に懐かしい唱歌「故郷（ふるさと）や、中山晋平の童謡、「ユモレスク」、「ハンガリア舞曲」等の名曲をフューチャーした長編アニメーション音楽映画です。

—チー公物語 ネズミ小僧のつくりかた 世紀末版(1991年)— <実写 人情・ギャグ・コメディ 101分>



監督：中田新一 作：宇田行人

脚本：竹内銃一郎 中田新一

製作・配給 幻燈社 / サクセスロード 撮影：鈴木達夫

照明：水野研一 美術：竹内公一 音楽：天翔陽子 大谷和夫

録音：川嶋一義 編集：川島章正

出演 大鶴義丹 国生さゆり 榎本明 平田満 竹中直人 黒田アーサー 他

<作品紹介>チー公とは・・・まるで「ネズミ」のように、あつちにうろちよる緊急以降7こつちにうろちよる、借金返済のためなら何でもやってしまう！究極のイカサマ師！！痛快・爆笑・大どんでん返し、涙なくしては笑えない、抱腹絶倒ダイナマイト・ギャグコメディ「チー公物語」は、ハッピーになるための観るクスリだ。

借金とりに誘われるまま(有)日本総販売に入社を強いられた辰夫(大鶴義丹)。しかしそこは、チー公のアジトだった。

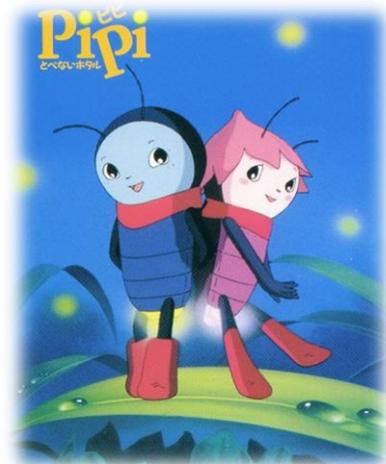
「チー公ってのは人に夢を与えるショーバイなんだ。」何の悪気もなく、うさん臭いものを売りつける彼らに唾然呆然。

辰夫はそこで静江(国生さゆり)に出会い、淡い恋心が芽生えるが・・・・・・。ひょんなことから、企業乗りを賭けた100億円の対決を強いられてしまう。

錯乱作戦を練るチー公軍団。結末はいかに！



—PiPi とべないホテル(1995年)— <アニメ・カラーピスタ 90分>



ヒューストン国際映画祭ファミリー・チルドレン部門金賞受賞

文部省選定作品・厚生省中央児童福祉審議会推薦作品・建設河川局推薦作品 他

製作：「PIPI ピピ とべないホテル」製作委員会

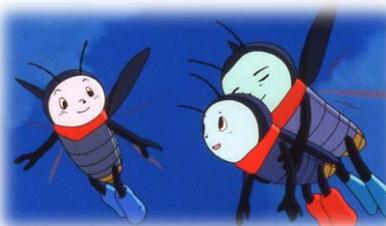
原作：小沢昭巳「とべないホテル」 監督：中田新一

声の出演：藤田淑子 松本保典 山口勝平 岩田光央 こおろぎさとみ

井上喜久子 折原愛 他

<解説>

絵本作家・小沢昭巳の『とべないホテル』を原作にした劇場用長編アニメーション作品。生まれつき羽がちぢれていることで飛べないホテルのピピが、他のホテルから仲間外れにされていたが、あることをきっかけに仲間たちと打ち解けていく姿を描いていく。ピピの抱える悲しみを、他のホテルたちが理解する優しさが伝わる内容。本作は松山ケンイチの映画初主演作『ウイニング・パス』の中田新一が監督し、松任谷由実が主題歌を担当。さらに藤田淑子や松本保典、山口勝平、岩田光央など、豪華な声優陣が参加している。



ー栄光へのシュプール(1997年)ー <アニメ・カラーピスタ 90分>



原作：和田 登「スキーに生きる」 監督：奥脇雅晴

声の出演：岡村明美・坪井智浩・大塚明夫・田中敦子・増田ゆき・岩田安生 他

【主題歌】さだまさし「煌（きら）めいて」

<解説>

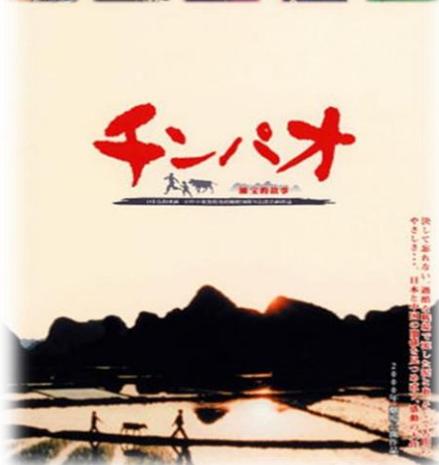
児童文学者・和田登氏の「スキーに生きる」を原作にモデルとなった猪谷千春氏の著書「わが人生のシュプール」を参考に脚色を加えたアニメーション。監督にテレビスペシャル「ルパン三世」の奥脇雅晴氏、作画監督に映画「うる星やつら」の小林ゆかり氏、美術監督に「風の谷のナウシカ」の中村光毅、音楽にはNHKドラマ「大地の子」等を担当した渡辺俊幸氏を起用。主題歌はさだまさし氏が歌い上げている。

<ストーリー>

昭和6年5月、冒険家であり写真家・随筆家でもあった猪谷六合雄のもとに男の子が誕生。千春と名付けられ、父から厳しいスキーの訓練を受けて育っていく。小学生になった千春はスキー競技会で抜群の成績を収め、「神童」と騒がれる。しかし慢心することを心配した両親はさらに厳しい訓練を千春に課し、戦争中も訓練は休むことなく続けられた。

終戦後、父は日本スキー界の再建に尽力し、千春は数々の競技会で優勝するようになる。しかし敗戦国の日本は国際的なスキー界に参加できず…。

ーチンパオ(1999年)ー <実写・カラーピスタ 94分>



2001年ワールドフェスタ・ヒューストン国際映画祭、海外映画部門プラチナ賞受賞

日中合作映画(日中平和友好条約締結20周年記念映画)

監督：中田新一 原作：黒藪次男「少年の目」(新日本出版社)

脚本：中田新一 叢者甲 今泉俊昭 撮影：伊藤嘉宏 音楽：石島正博

製作：サクセスロード・中国電影合作製片公司・中田新一 企画：上田精一

出演：田村高廣 大浦龍宇一 岩崎ひろみ 厳敏求 徐可心 他

<解説>

「チンパオ」は、中国人の少年の名前。父親も母も日本兵に殺され、幼い妹のチイホイと桂林の近くの村で暮らしている。チンパオの宝物は、チャアンチュアンと名付けて生まれたときから育ててきた牛である。時代は1945年春。人民軍との戦闘に敗色濃厚となった日本軍部隊は、食料調達と称して中国農民の家畜や穀物を略奪しながら北へ敗走していた。チンパオの大事な牛もそうした部隊に連れ去られてしまうが、父親を奪われ、さらに家族同様のチュアンチュアンを奪われた兄妹は、牛を返してくれと叫びながら、追われても追われても部隊の後をついてゆく。

学校出征兵の相澤伍長は、兄妹の懸命さに次第に同情するようになり、農民出身の無骨な堀軍曹もチンパオの牛を殺すことにためらいを感じるようになるが、秩序を失った敗軍の混乱は、痛ましい悲劇になって、復員した相澤伍長をその後50年にわたって苦しめることになる。

大戦中の中国での体験をもとに元小学校教諭・黒藪次男氏が書いた児童文学「少年の目」(新日本出版社)が、この作品のベースになった。日本側の舞台である熊本で制作協力運動が持ち上がり、中国・桂林市との姉妹都市提携両都市を舞台とする企画が発展した。そして、両国の制作者が費用を双方負担しあつての合作映画がはじめて誕生した。

—ウィニング・パス(2005年)— <青春・ドラマ 108分>



北九州市制 40 周年記念映画 2005 年度北九州市功労賞

上海国際映画祭パノラマ部門 ジョニー国際映画祭コンペティション部門出品作品

第 16 回東京国際映画祭ニッポン・シネマ・フォーラム部門 公式出品作品

・文部科学省選定 ・厚生労働省推薦 ・日本PTA全国協議会推薦

監督：中田新一 / エグゼクティブプロデューサー：中橋真紀人

製作：「ウィニング・パス」製作実行委員会（イメージ・サテライト/サクセス・ロード /九州シネマ・アルチ）

出演：松山ケンイチ（第一回主演作品）・堀北真希・角替和枝・矢崎滋・佐藤めぐみ

三浦誠己 加藤大治郎 ベンガル 寺島進

石井めぐみ / 柄本明 / 加藤剛 他

<作品介绍>ある日突然、ひとつの「自由」を失った高校生の挑戦・・・

高校2年の健太は彼女の香織、友人の大輔・和也と共にそれなりに楽しい高校生活を送っていた。香織はスタイリストを目指し上京を考えている女の子。そのまっすぐな眼差しに、健太も自分の可能性について考え始めた矢先だった。

突然の事故で下半身不随になった健太。「車椅子になる」現実を受け入れられず、周囲を拒絶する健太だったが、同室の変なオヤジ・坂田や、車椅子バスケットを始めるきっかけとなる誠との出会いで次第に明るさを取り戻していく。

学校に戻った健太は、自分を受け入れてくれる香織に対して素直に接することが出来ないまま、誠が所属する車椅子バスケットチーム「北九イーグルス」に入る。激しいぶつかり合いとスピード・・・まさに格闘技さながらの車椅子バスケの世界に、健太は自分



—風のダドゥ(2006年)— <ドラマ 95分>



新エンターテインメント“えいが DE セラピー” 雄大な阿蘇の自然に抱かれながら、人間味溢れるスタッフ・キャストが生命を謳いあげる!

企画・製作・監督：中田新一 / プロデューサー：水野清 / 脚本：南柱根

出演：榎本孝明 木村文乃 勝野洋 中原丈雄 角替和枝

井上晴美 小林幸一郎 石丸謙二郎 他

製作：劇映画「風のダドゥ」製作実行委員会 長崎支援の会

オフィス・タカ ハイビジョン映像株式会社 株式会社サクセスロード

配給：角川ヘラルド映画株式会社

<作品介绍>春を待つ阿蘇山を、彷徨う 16 歳の少女——。

少女の名は浅野歩美。孤独感に耐え切れずに家を飛び出し山中で意識を失いかけていたところを、装蹄師の桜田によって彼が働く「阿蘇ふれあい牧場」へ運ばれる。牧場では、かつて競馬界で名調教師として名を馳せさせた安藤幹夫とその家族、ある出来事をきっかけに過去を捨てた元高校教師、言葉を失った少年たちが暮らしていた。一命を取り留めた歩美は、しばらくそこで生活することを決意。阿蘇の雄大な自然の中、彼らの誠実な人柄に触れ、元競走馬メイワジョニーとの出逢いを通して、次第に心を開いていく。そんな矢先、突然受け入れがたい出来事が・・・そして、歩美は深い失意の底に突き落とされる。

生きる希望を見失った彼女に再び生きる力を与えたものとは・・・



—MARCHING-明日へ-(2004年)—<111分>



東日本復興支援作品 日本初のマーチング映画完成！！！！

監督：中田新一 / 脚本：関桂子 原田哲平

製作：田中秀夫 中田新一 / エグゼクティブプロデューサー：中村行宏

配給：MARCHING 配給委員会 (MARCHING 株式会社・共同組合 JSN)

出演：竹富聖花 桜田通 石田法嗣 小林涼子 YOKOHAMA ROBINS 伊藤かずえ
酒井敏也 不波万作 香山美子 日野皓正 西郷輝彦 他

【解説】 福島の漁港ではかつて、遠洋漁業に出る船団を吹奏楽で見送る風習が盛んだったといひます。本作では、こうした習慣を受け継ぎながら、ふたつの港町、横浜と福島の若者たちが音楽を通じて成長し、ひとつになっていく姿を描いています。

本映画は福島で取材した震災時の体験談をもと製作されており、実際の住民の声が随所に描き出されています。また、第一線で活躍するマーチングバンドのメンバーらが数多く出演し、圧巻の演奏を披露しています。様々なジャンルの音楽が各場面を盛り上げ、音楽の魅力と多くの人々の想いを伝えています。

【あらすじ】 「One for all All for one」 横浜のマーチングバンド「ヨコハマ・ベーシック」。隊長のマリは「今年こそ全国優勝を！」と気合十分。ところが、チームを引っ張るトランペッターの忠信は、ジャズプレイヤーを目指すと退団発言、周囲に波紋が広がる……。一方、忠信の家では被災地・福島から祖母の幸江と息子・洋介が避難して来ているが、幸江の長女・美咲は福島で介護福祉士を続けている。美咲の恋人で漁師の勝男は、福島県・祝島のブラスバンドのトランペッターの名手。東日本大震災後のふるさとの復興を願う人たちと、横浜のマーチングバンド。全国大会の日が近づいてくるなか、音楽を通して、ふたつの港町の若者たちが心をひとつにしようとしたこととは……。



ATG —地の群れ—(1970年) <127分>

1970年度キネマ旬報ベストテン第5位 / 1970年度映画評論ベストテン第4位

第25回毎日映画コンクールベストテン第3位

第25回毎日映画コンクール女優助演賞(奈良岡朋子「どですかでん」と共に)

第25回毎日映画コンクール音楽賞(松村禎三) / ミリオンパール賞

日本脚本家協会賞(熊井啓、井上光晴) / ベルリン国際映画祭日本正式代表作品

監督：熊井啓 / 製作：大塚和・高島幸夫 / 原作：井上光晴 / 脚色：熊井啓・井上光晴

<ストーリー>

佐世保で診療所を開く医師宇南(鈴木瑞穂)の患者に、明らかに原爆病と思われる少女がいた。しかしその娘の母光子(奈良岡朋子)は、自分は長崎に原爆が投下された日他県にいて絶対に被爆していないと言い張る。被爆者の集落、海塔新田の仲間と思われるのを恐れているに違いなかった。じつは宇南もまた、自分が被爆者ではないかという不安を抱いていた。原爆で死んだ父を捜し求めて爆心地を何日もさ迷い歩いたからだ。さらに、自分が被差別部落出身者であることを知り、宇南は子供をつくるまいと決心していた。子供が欲しい妻の英子(松本典子)はそんな夫の秘密を知らず夫を責め続け、宇南は耐え切れずに酒に逃げる。

ある日、被差別部落の徳子(紀比呂子)が、強姦された証明書を書いてくれとやってきた。宇南は炭鉱で働いていた若い頃、朝鮮人の少女を姦して妊娠させ、少女が自殺したのいいことに炭坑から逃げ出した過去があった。辛い過去から逃げようとして宇南はまた酒に溺れる。

強姦の容疑は、徳子と顔見知りの被爆者信夫(寺田誠)にかけられた。徳子が住む部落と信夫が住む集落のあいだで、長年にわたりくすぶっていた怨念と憎悪が急速に高まった。真犯人は信夫の住む集落の青年であることがわかり、信夫は釈放されて、徳子との間に新たな思いが芽生えた。にもかかわらず、犯人の父宮地(宇野重吉)と徳子の母松子(北林谷栄)を中心に、火のついた二つの部落の対立は、思いもかけない悲劇へと突き進んでいく……。

ATG —祭りの準備—(1975年) <117分>

第49回キネマ旬報ベストテン(第2位) / 第49回キネマ旬報脚本賞 中島丈博

第49回キネマ旬報助演男優賞 原田芳雄 / 第30回毎日コンクール脚本賞 中島丈博

第30回毎日コンクール録音賞 久保田幸雄

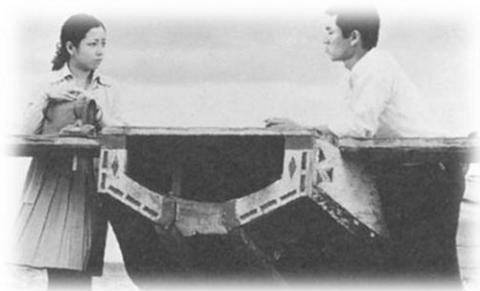
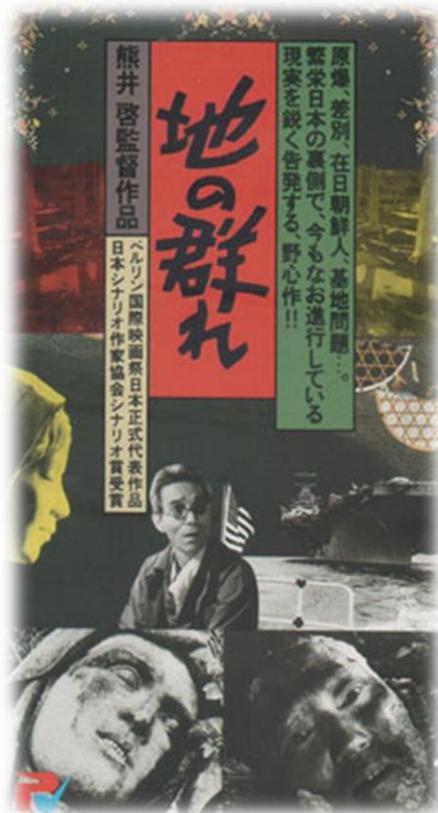
第18回ブルーリボン賞助演男優賞 原田芳雄 (『田園に死す』と共に)

芸術選奨新人賞 黒木和雄

監督：黒木和 / 企画：多賀洋介 / 製作：大塚和・三浦波夫 / 原作脚本：中島丈博

出演：江藤潤 馬淵晴子 ハナ肇 浜村純 竹下景子 原田芳雄 他

<解説>すでに『津軽じょんがら節』『赤ちょうちん』等で知られていた中島丈博の脚本による自伝的要素の強い出世作であり代表作でもある。土佐の海辺の村から都会へ脱出を図る青年と、彼を取り巻く猥雑かつ人間臭い村人たちの興味深々とした物語を、黒木和雄監督は名カメラマン鈴木達夫のカメラを通し、力強いリアリティと情愛に溢れたまなざしで描き、前作『竜馬暗殺』をしのぐ高い評価を受けて同監督の代表作のひとつとなった。



ATG— 鷗よ、きらめく海を見たか めぐり逢い— (1975年) <92分>



監督：吉田憲治 / 企画：大塚和・多賀祥介 / 製作：三浦波夫・宮川孝至

脚本原作：岩間芳樹

出演：高橋洋子 田中健 根岸明美 天の夕づる 早田文治 三笑亭笑三 他

<解説>本作は、『私は泣かない』(1966)で鮮やかな監督デビューを果たした吉田憲二が日活退社後の第一作『モスクワ わが愛』(日ソ合作 1974)に続き、ATG と提携して撮った綜映社第一回作品である。脚本は、『植村直己物語』(監督:佐藤純弥 1986年)や『鉄道員』(監督:降旗康男 1999年)ほか、放送界でも多くの秀作を残した岩間芳樹で、同氏の「現代日本艶歌」が原作。撮影は、『庄殺の森 高崎経済大学闘争の記録』(監督:小川紳介 1967)、『につぼん零年』(監督:藤田敏八ほか 1969)、『アイランズ/島々』(監督:セミヨン・D・アラノヴィッチ・大塚汎 1993)、『ぬちがふう (命果報) 玉砕場からの証言』(監督:命果報 2012)などの大津幸一郎が担当した。

高度経済成長に取り残された地方から華やかな都会に憧れて上京した若く貧しい男女の、無様なほど純粋な愛とすれ違いを描いた切ない青春映画である。

ATG — 夕暮れまで(1980年) — <110分>



監督：黒木和雄 / 企画：横井潤一・前田勝弘 / 製作：アート・センター

配給：東宝 / 原作：吉行淳之介 / 脚本：浜地一郎・田辺泰志

プロデューサー：中田新一

出演：桃井かおり 伊丹十三 加賀まりこ 山口美也子 馬淵晴子 他

<解説>吉行淳之介が野間文芸賞を受賞した同名小説の映画化である。原作は純文学としては異例の40万部を超える売れ行きを示し、中年男性と若い女性のカップルをさす「夕暮れ族」という流行語まで生まれた。監督は『祭りの準備』の黒木和雄。『祭りの準備』のカメラマン鈴木達夫と再び組み、不可解な愛と性を描く吉行文学の映像化に挑んだ。主演は伊丹十三と前年度数々の映画賞を獲得した桃井かおり。また、本作で見事ブルーリボン助演女優賞に輝いた加賀まり子ほか、馬淵晴子、原田芳雄らベテラン俳優が好演している。